

キングストンの作品における「関公」表象

— 『アメリカの中国人』を中心に

王 偉

要 旨

マキシーン・ホン・キングストンの第二作目の作品『アメリカの中国人』は語り手の「わたし」によって、曾祖父、伯父、父、弟の世代の男性達の苦闘の歴史が語られる中国系アメリカ人男性の年代記とも言うべき作品である。各章の間には中国の伝説、神話、小話、アメリカの移民政策文書、新聞記事等が挿入されている。本稿では、『三国志演義』に描かれている英雄「関公」（関羽）に関する言及や挿話に注目したい。最初に『アメリカの中国人』において中国の英雄「関公」がいかに表象されているのかを考察し、次に「関公」と対比する「唐敖」の言及を分析し、「新しい男性像」の視点からキングストンの創作意図を探りたい。

【キーワード：関公 / 唐敖 / 去勢 / 中国系アメリカ人 / 新しい男性像】

はじめに

1980年にマキシーン・ホン・キングストン (Maxine Hong Kingston, 1940-) は『アメリカの中国人』(China Men) を発表した。彼女の処女作『チャイナタウンの女武者—幽霊の中で過ごした少女時代の思い出』(The Woman Warrior: Memoirs of a Girlhood among Ghosts, 1976、以下『チャイナタウンの女武者』) に描かれた中国文化イメージをめぐる、同じ中国系アメリカ人作家の間で、大きな論争が巻き起こった。フランク・チン (Frank Chin, 1940-) をはじめとする中国系アメリカ人男性作家や批評家は、この作品を猛烈に批判した。チンらは、キングストンとエイミー・タン (Amy Tan, 1952-) などの女性作家を、「中国古典物語と神話の再解釈によって中国の伝統文化の純粋さを汚した」(Aiiieeeee! 150) と批判した。また、チンは『チャイナタウンの女武者』が「女性は全員が犠牲者である」というフェミニスト的想定のもとに構築され、「男性は中国の悪と倒錯」を表象し、真の中国人男性を描いておらず、アメリカの読者に媚びていると批判した。(Aiiieeeee! 157) 沈黙していたキングストン本人は、四年後の1980年にティモシー・プファッフ (Timothy Pfaff) とのインタビューで、「古い中国の神話を生かす私の方法は、中国の神話を新しいアメリカ的な方法で語ることによってである」(Skenazy 26) と、自己の手法について述べている。この年、キングストンはチンの批判に反駁するかのよう、中国系アメリカ人男性達を主人公にした『アメリカの中国人』を発表した。

『アメリカの中国人』は、中国系アメリカ人男性の年代記とも言うべき作品である。中国人男性がアメリカに移民として渡り、サトウキビ農園での過酷な労働、採掘、大陸横断鉄道建設などの肉體労働をしながら労働者の権利を勝ち取っていく。各章では中国系アメリカ人である語り手の「わたし」によって、曾祖父、父方と母方の双方の祖父、伯父、父、弟世代の中国系男性達の苦闘の歴

史が語られる。章と章の間には、中国の伝説、神話、小話、アメリカの移民法、新聞記事等がコラージュ風に挿入されている。本稿で注目したいのは、この作品に『三国志演義』(Romance of the Three Kingdoms, 明代?)に描かれている英雄「関公」(Kuan Goong)に関する言及や挿話が見受けられることである。

キングストンの処女作『チャイナタウンの女武者』は女性の視点で、女性の運命と戦いを物語る作品である。一方、『アメリカの中国人』の語り手は同じく女性の「私」ではあるが、主要登場人物は父、祖父、曾祖父、弟などの六人の男性であり、女性の声は作者によって意識的に隠されている。キングストンは、同じインタビューで『『アメリカの中国人』を書く過程で、男性がどう考えるかについて、何か新しいことを学べるのではないかと思います。できるかぎり男性の心理の奥深くに入り込んだ気がします』(Skenazy 26)と語っている。「男性の心理の奥深くに入り込む」ために、キングストンは、『アメリカの中国人』で「関公」という中国の伝統的文化イメージを用いる。

本稿では、中国系アメリカ人文学の作品に描かれた「関公」像がいかなるものか分析する。次に『アメリカの中国人』において中国の英雄「関公」がいかに表象されているのかを考察する。さらに、この作品全体のテーマを提示している第一章「発見について」(“On Discovery”)に登場する唐敖(Tang Ao)の物語を取り上げ、中国系アメリカ人の男らしさの喪失あるいは去勢される(emasculatation)現実とその社会的な原因を分析する。最後に、キングストンの望む理想の男性像はいかなるものであるかを探りたい。

1 中国系アメリカ文学における「関羽」

「関羽」はもともと『三国志』に記載されている歴史上の英雄である。彼が多くの人に知られているのは、小説『三国志演義』のおかげである。『三国志演義』における「関羽」は、「桃園の義」、「五関突破」、「一騎当千」、「骨を削って傷を治療する」などの伝説的なエピソードを通して描かれている。小説に登場する「関羽」は「勇、忠、義、信」という儒教の「君子観」と一致し、「君子」に欠けてはならない品格の集大成者となり、一般民衆のみならず、歴代の統治者にも尊ばれた。清の時代に、皇帝は「関羽」を「忠義神武関聖大帝」に封じ、それ以来「関羽」のことを「関公」と呼ぶようになる。こうして、「関羽」は人間の範疇から、「半人半神」になり、最後は「神」になり、中国人の先祖崇拜の対象となっている。現在では、中国本土のみならず、海外にも数えきれないほどの「関公」を祭る廟が建てられている。

中国系アメリカ文学においても「関公」を題材にした文学作品は数えきれないほどあり、「関公」は無視してはならないイメージと位置づけられている。1970年代の初頭、チンをリーダーとした四人の若い大学教師(一名は日本人)がアメリカ文学史上初めてのアジア系アメリカ文学作品集『アイイー！—アジア系アメリカ文学傑作集』(Aiiieeee!: An Anthology of Asian-American Writing)を編集して出版した。彼達は「中国芸術と戦争の神—関公」の精神を自分の行動の原動力(Kim, 173)とする。1930年代にアメリカに移住した林語堂(Lin Yutang, 1895-1976)の『チャイナタウンの家族』(Chinatown Family, 1948)において、作者は「関公」のことを次のように語る。「関公

は中国歴史上、軍人の鏡であり、死後、戦争の神になり、正直な人を守り、残虐で不誠実な人間を譴責する」(Lin, 84) と。劇作家の黄哲倫 (David Henry Huang, 1957-) の作品『ダンスと鉄道』(*The Dance and the Railroad*, 1981) においては「関公」は「祖国から伝わってきた伝統文化の象徴だ」(Hwang, 190) と述べられている。

チンの「中国系アメリカ人文学の伝統——ヒロイズム」という論説において、「関公」は非常に重要な役割をしている。チンは「関公」のことを「忠実さ、勇ましさ、素直さ、そして偉大なる中国の品格の全てを体現する人物」(*Aiiiiieee!*, 38-9) であると述べる。「母から「関公」という遺産を継ぎ、脚本を書くことは戦うということと同じだ。言いたいことを全部言ったからこそバランスを保つことができるのだ」(MacDonald, 250) と言う。チンは、『ガンガ・ディン大通り』(*Gunga Din Highway*, 1994) では、中国系アメリカ人の二世代の男性登場人物を「ユリシーズ・カン」(Ulysses Kwan) と名付けている。ユリシーズはギリシア神話の英雄オデュッセウスラテンである。彼は勇ましい、ずる賢い、冒険的、といった性格を有する。一方、カン(漢字で関)は、中国の英雄の「関羽」を連想させる。彼は英雄であり、忠誠、力を意味する。ギリシアの英雄オデュッセウスのラテン語名ユリシーズと中国の武将関の名前を組み合わせることによって、チンは巧妙に中国系アメリカ人男性の英雄的資質や義侠心を再建しようとする意図を持っているのではないかと思う。

2 キングストンの作品における「関公」

もっとも集中的に「関羽」のイメージを作品中で用いているのはキングストンである。彼女の『チャイナタウンの女武者』、『アメリカの中国人』、『トリップマスター・モンキー』の三作品において「関公」がいろいろな形で登場している。『チャイナタウンの女武者』では、伝説の女武者花木蘭 (Fa Mu Lan) が「関公」から勇気もらって、敵に打ち勝つ姿が描かれている。

We would always win, Kuan Kung, the god of war and literature riding before me. I would be told of in fairy tales myself...Whenever we had been in danger of losing, I made a throwing gesture and the opposing army would fall, hurled across the battlefield. Hailstone as big as heads would shoot out of the sky and the lighting would stab like swords, but never at those on my side.
(*The Woman Warrior*, 38)

ここで、花木蘭は戦争と文学の神である関公に守られ、彼女自身も「関公」に化身したかのように戦う。また、神しか持たない力、すなわち自然を操縦することもできる。「稲妻がさながら剣のように突き刺さる。だが、わたしの軍団には決してあたらない」(*The Woman Warrior*, 38) ののである。

キングストンの『アメリカの中国人』ほど「関公」を登場させた文学作品はないだろう。第三章「シエラネヴァダ山脈の祖父」("The Grandfather of the Siera Nevada Mountains") の冒頭の部分に「祖父の写真は、祖母の写真と同じように大きな写真と戦争と文芸の神である関公の絵に挟まれて、掛けられている」と描写されている。

Grandfather's picture hang in the dining room next to an equally large one of the Grandmother, and one of Guan Goong, God of War and Literature. (*China Men*, 126)

ここで「関公」は中国系アメリカ人の先祖と一緒に、家族の一員として彼らを支えているのである。「関公」は先祖崇拝の対象となっている。第三章ではまた、一ページにわたる祖父がサクラメントで「関公劇」をみる場面が詳細に描かれている。

The main actor's face was painted red with thick black eyebrows and long black beard, and when he strode onto the stage, Ah Goong recognized the hero, Guan Goong; his puppet horse had red nostrils and rolling eyes. Ah Goong's heart leapt to recognize hero and horse in the wild of American. (*China Men*, 149)

ここで、阿公 (Ah Goong) は俳優の化粧を見た瞬間、それが関公だとわかる。芝居が進むにつれて、「関羽」のほか、「劉備」(Liu Pei)、「張飛」(Chang Fei)、「曹操」(Ts'ao Ts'ao) も登場する。「桃園の誓い」、「一騎当千」などの『三国志演義』のよく知られている名場面も描かれる。

All the prisoners were put in one bedroom, but Guan Goong stood all night outside the door with a lighted candle in his hand, singing an aria about faithfulness. (*China Men*, 149)

『三国志演義』に描かれている「関公」の忠誠 (faithfulness) を示すエピソードもでてくる。そして、芝居をみた後阿公は元気が湧いてくる。

Ah Goong felt refreshed and inspired. He called out Bravo like the demons in the audience, who had not seen theater before. Guan Goong, the God of War and literature, had come to America—Guan Goong, Grandfather Guan, our own ancestor of writer and fighters, of actors and gamblers, and avenging executioners who mete Gut justice. Our own kin. Not a distant ancestor but Grandfather. (*China Men*, 149-150)

キングストンの作品において、「関公」というイメージは、様々な意味を担っている。神 (God) でありながら、祖先 (ancestor)、身近な先祖 (Grandfather) にもなっている。しかもそれぞれの職業を持つ人 (文学者や武者、俳優や博奕打ち) の守り神にもなっている。関公に重層的な意味をもたせるのは、キングストンの独創ではないかと思われる。

最後に、キングストンの三番目の作品『トリップマスター・モンキー』(*Tripmaster Monkey: His Fake Book*, 1989) を見てみよう。この作品では、「関公」は小説のいたるところに登場する。この

作品では『三国志演義』のみならず、『西遊記』(*Journey to the West*, 16世紀)、『水滸伝』(*Water Margin*, 17世紀頃)などの中国古典文学作品からの引用や言及が数多く見受けられる。主人公のウイトマン・ア・シン(Wittman Ah Sing)が第三世代の中国系アメリカ人の三人とともに『三国志演義』の「桃園の誓い」を演じる場面が数十ページにわたって描かれている。前二作と違い、この作品では、「関公」は単に理想化された戦争の神、先祖、義の象徴としてだけ描かれているわけではない。主人公ウイトマンにとって、「関公」は劇や文学の神、想像力やインスピレーションの源となっており、『三国志』に登場する、勇ましく義に篤い武将という姿は、大胆に書き換えられている。

「関公」が初めて登場するのは、小説の第三章である。ここでは、「関公」は読書人の鏡として描かれている。

Take the stance of Guan Goong the Reader, who read in armor during the battle, who read to enemies, who red loud when no one listened, Wittman Ah Sing read. He held his soft-covered book rolled in his sword hand. (*Tripmaster Monkey*, 134)

以下の引用では「関公」は祖父になる。

The old Chinese audience will be moved with pity because they recognize our grandfather, Grandfather Guan Yee, also called Guan Cheong Yun, sounds like Long Cloud, that excellent man, Guan Goong, horseless, and no squire to carry his luggage. (*Tripmaster Monkey*, 140)

ここでは、「関公」は人間の祈願を叶う神様となる。

There are Chinese people who would explain that Guan Goong was paying us a visit; the color was emanating from a building in downtown Oakland, where you would have seen Guan Goong's good red face, or its reflection, upon ten stories of brick wall. You could have asked for any wish, and Guan Goong have granted it. (*Tripmaster Monkey*, 148)

最後の引用では、「関公」は劇作家の神様に代わり、主人公ア・シンの創作に想像力とインスピレーションを与える存在となる。

On prancing Red Rabbit, Grand Marshal Grandfather Gwan, god of war and theater, rides again. (*Tripmaster Monkey*, 216)

以上、論じてきたように、「関公」という中国文化のイメージは時代を超えて、数多くの中国系

アメリカ作家の作品に登場した。そのイメージが意味するものは作家によって異なる。『三国志演義』における勇ましい、正直で忠誠心溢れる武将「関羽」は『チャイナタウンの女武者』と『アメリカの中国人』においては親切で、子孫代々を守る祖先となり、そして『トリップマスター・モンキー』の第三世代の中国系アメリカ人の間では読書人や福神や劇の神様となる。キングストンの作品では、「関公」は『三国志』における儒教思想を代弁する英雄にとどまらず、より豊かで重層的な意味を持つのである。

3 「唐敖」のイメージと中国系アメリカ人の男らしさの喪失

フランク・チンは前述の「母から関公という遺産を継ぎ、脚本を書くことは戦うということと同じだ。言いたいことを全部言ったからこそバランスを保つことができるのだ」(MacDonald, 250)と述べたように、「関公」は中国系アメリカ作家の創作の推進力となる。当時中国系アメリカ人のヒロイズムをアピールすることは、おそらくフランク・チンの戦いであったのだろう。とすると、中国系アメリカ人作家は「関公」を登場させることによっていったい何を言いたいのであろうか。「関公」と中国系アメリカ人の男らしさとどう関連しているのか。以上のことを考察してみたい。

『アメリカの中国人』は、「発見について」の章から物語が始まる。

Once upon a time, a man, named Tang Ao, looking for the Gold Mountain, crossed an ocean, and came upon the Lang of Women. The women immediately captured him, not on guard against ladies.

(China Men, 3)

唐敖という名前をもつ人物は、李汝珍 (Li Ju-chen, c. 1763-1830) に書かれた清代の伝奇小説『鏡花縁』(Flowers in the Mirror, 1818) の主人公である。しかし、『アメリカの中国人』における物語の展開は『鏡花縁』とは異なる方向に進んでいく。唐敖は女王のところまで連れてこられ、化粧をさせられ、女の衣装を着せられ、錠をおろした天蓋のついた部屋に入れられる。数日後、二人の老婆は「彼の耳を突き刺し、纏足をさせられる」(China Men, 4)。「子宮の調子を整えるために、漢方薬を飲ませられる」(China Men, 4)。数ヶ月後、唐敖は、完全に女性に変身させられる。

He served a meal at the queen's court. His hips and his shoulders swiveled because of his shaped feet.

(China Men, 5)

この「発見について」という章は、中国清代の伝奇小説『鏡花縁』の物語の模倣であるが、原作と違っているところも多数ある。まず、物語の場所を原作の「海外」から「金山」に変えている。また、第一章の最後のところでは、女人国は「税金もなく戦争もなかった。その国が発見されたのは則天武後の統治時代(紀元六九四—七〇五)だったという学者もいるし、いや、それより早い時代の紀元四四一年のこと、北アメリカで発見されたのだった、という学者もいる。」(China Men,

5)という作者の声が現れる。キングストンはなぜ意図的に原作を歪曲させ、「金山」と「北アメリカ」を強調するのか。その理由について、キングストンは次のように説明している。

In China Men, I wrote about a man who comes to the land of woman, where they bind his feet and they pierce his ears. I wrote about Chinese men who came to America, a land where they had to do women' work, laundry and restaurant work. (Huntley, 85)

すなわち、キングストンが原作を書き直した目的は、性転換の描写を通して、男性が去勢される社会的な原因を究明することであろう。『アメリカの中国人』において、六人の男性のアメリカでの苦難と奮闘の物語が展開されていく。各章の間に、中国人の入国禁止の法律文書が挟まれる。キングストンは、中国人男性がアメリカで、精神的、肉体的に去勢されるに等しい悲惨な運命を辿ったと、アメリカ社会に訴えているのである。

歴史を顧みると、1924年から移民たちの妻の入国を禁じることになる。それに加えて、白人女性はいったん中国人と結婚すれば、アメリカ人という身分を自動的に失うことになる。こうした厳しい移民政策のため、中国系アメリカ人の男性は、精神的に去勢されることとなる。『アメリカの中国人』の第一章「発見について」は、このような歴史的事実を巧みに再現するのである。

「シエラネヴァダ山脈の祖父」の章では、阿公がアメリカのシエラヴァダ山脈で働いているところが描かれている。労働環境が厳しい以上、阿公は体的にも精神的にも苦しんでいる。彼の性的な苦悩について、次のように語られる。

One beautiful day, dangling in the sun above a new valley, not the desire to urinate but sexual desire clutched him so hard he bent over in the basket. He curled up, overcome by beauty and fair, which shot to his penis. He tried to rub himself calm. Suddenly he stood up tall and squirted out into space. "I am fucking the world," he said. (*China Men*, 133)

しかし、こういう生理的な欲求の快感は一時的なことにすぎない。結局、厳しい入国制度と結婚制度のために、何年か経つと、男性としての生理的な実感すらなくなり、このことがトラウマとなる。

He took out his penis under his blanket or bared it in the woods and thought about nurse and princesses. He also just looked at it, wondering what it was that it was for, what a man for, what he had to have a penis for. (*China Men*, 144)

E・D・ハントリー (E. D. Huntley) が論じたように「男らしさは文化的な構築物である。男性という存在は女性の対極に存在する状態である。そして、女性が不在であれば、男らしさを定義する

ことは困難であり、男性の役割は不必要である」(Huntly, 150)。男性の存在の前提条件はその対極にある女性の存在である。女性が不在 (absence) の状況下で、中国系アメリカ人の男性の存在はどこにあるのか。

中国人家族の入国禁止と異民族間の結婚に対する厳しい制限が、中国系アメリカ人男性を生理的に去勢させる一方、ゴールドラッシュの後、アメリカ国内の労働力過剰と経済不振のため、20世紀初頭から反中国人移民の活動が活発になる。移民に対して厳しい現実の中で、大量の移民はシカゴやサクラメントなどの大都市に移住した。中国系アメリカ人男性の当時の主要な職業は洗濯屋や中華料理屋などであり、従来女性の仕事とされたものである。このように、中国系アメリカ人男性は精神的にも去勢されたのである。

4 キングストンの理想的な男性像

『三国志』であれ、『三国志演義』であれ、「関公」はまず戦争で勇ましい働きをする武将として描かれている。特に『三国志演義』において、「五関突破」、「一騎当千」、「骨を削って傷を治療する」というエピソードが示すように、「関公」は普通の人間以上の力を持つ人物であると思わせる。

『アメリカの中国人』において、阿公は「関公」のように白人と戦う。「シエラネヴァダ山脈の祖父」の章では、労働時間は増やさず、賃金を上げるためのストライキをおこなうエピソードがある。リーダーの阿公の呼びかけで、労働者たちは、むかで、サソリ、蛇、毒どかげ、蛙の「五つの災い」をよけ、「ストライキに賛成」を意味する黄色の旗を張る (*China Men*, 140)。また、先見の明ある労働者は干し肉をつくり、酒を発酵させ、食べ残しを漬け物にして保存し、九日間にもわたって戦う。結局、セントラル・パシフィック会社との戦いに勝利する。労働時間は八時間のまま、月四ドルの昇給という労働条件を勝ち取り、ストライキを収める。このエピソードでは、中国系アメリカ人男性としての反抗心と知恵が描かれている。

さらには、「檀香山の曾祖父」(“The Great Grandfather of the Sandalwood Mountains”) の章に、阿公が労働現場の白人管理者の「体罰」と「話し禁止」に対して反抗するエピソードがある。白人が鞭をふるようになると阿公は白人鬼 (white demon) を馬から叩き落とし (*China Men*, 101)、ココナツのように頭を割ってやる (*China Men*, 101) と言う。男性の暴力で、白人に反抗すると決める。しかし、以上のような話を出した途端、白人鬼は近づき、鞭をうならせる。それでも、阿公は諦めず、「また話すんだ」(*China Men*, 102) と決意する。そして、給料日に、罰金をひかれた労働者たちは曾祖父と同じように白人鬼を呪う。

The men cursed as they reckon their pay. “Dead man.” “Rotten corpse afloat.” “Corpse on the roadside.” “Hunchback with a turtle on his back,” that is “Cuckold.” “Your mother’s ass.” “Your mother’s cunt.”
(*China Men*, 102)

ここで、話すことは曾祖父にとって、自分の権利を主張し、白人鬼と戦う有力な武器である。ま

たは、話すという行為は治療の効果もある。

“Uncles and Brothers, I have diagnosed our illness. It is a congestion from not talking. What we have to do is talk and talk.”
(*China Men*, 115)

しかし、白人鬼がより厳しくなり、曾祖父たちは何回も体罰を与えられる。その結果、話すのをやめ、もう一つの方法を考え出す。それは咳をすることである。

On the hottest days, the coughing made his nose bleeding...His cough did come in handy. When the demons howled to work faster, faster, he coughed in reply. The deep, long, loud coughs, barking and wheezing, were almost as satisfying as shouting. He let out scolds disguised as coughs. When the demon beat his horse and dust rose from its brown flanks, he coughed from the very depths.
(*China Men*, 104)

または、咳を使って白人鬼を呪う歌も出てくる。

He still hacked at the cane while coughing : “Take-that-white-demon. Take-that. Fall-to-the-ground-demon. Cut-you-into-pieces. Chop-off-your-leg. Die-snake. Chop-tou-down-stinky-deomon.” His sentence shortened, angry pellets that shot out of him.
(*China Men*, 114)

以上、述べたように、キングストンの作品に登場する男性は決して型にはまった人間ではない。彼らは実際の行動を起こし、暴力的な言葉を使い、咳を巧妙に活用し、「関公」のようにアメリカの白人と戦ったのである。

『三国志演義』では、「関公」は単に勇猛な武将のみならず、義に篤き、人との約束を守る男としてもよく知られる。原作に「関羽」と「劉備」と「張飛」は屋敷の裏の桃園で義兄弟の誓いを交わす。「関公」は戦乱の中で命を惜まず「劉備」の妻を救うことがその義と約束を守る彼の性格を示していると言えよう。

『アメリカの中国人』では、阿公をはじめ、中国系アメリカ人が互いに助け合う姿が描かれる。まず、エンジェル島に拘留されているとき、人形劇を演じたり、手品をやったり、お互いに励まし合うエピソードも描かれる。壁に「金のことは嘘だ」(*China Men*, 56)と「この島は天使のようなところではない」(*China Men*, 56)と書き、後から来る中国人に警告する。

また、「中国からやってきた父のこと」(“The Father from China”)の章には、密航する中国人を白人から守る場面もある。

The smuggler came occasionally and knocked a code on the wood, and the stowaway father

signaled back. Thus he knew that he had not been forgotten, that he had been visited. This exchange of greeting kept him from falling into the trance that overtakes animals about to die.

(*China Men*, 52)

白人の暴力に対し、お互いをかくまったり、食事を分け合ったりするエピソードも出てくる (*China Men*, 140)。または鉄道工事でなくなった死者の墓参りをし、霊を祖国に帰ると祈っている (*China Men*, 227)。エレイン・キム (Elaine H. Kim) は、『アメリカの中国人』は「さまざまな体験をした何世代にも及ぶ男たちの肖像であり、中国系アメリカ人のためにアメリカの権利を主張し、沈黙することも犠牲にされることも拒否するヒーローたちの物語である」(Kim, 281) と論じている。作品に描かれた男性は「強く、雄弁であり、お互いに慈しみ合っている」(Kim, 281) と指摘している。つまり、この作品に登場する男性は、典型的な中国系アメリカ人男性に対する具体的で反証である。

以上論じたように、「関公」というイメージは中国系アメリカ人の男らしさと密接に繋がっている。この点は、キングストンを激しく攻撃したフランク・チンと類似しているところである。しかし、キングストンの作品では、理想的な男性像が「関公」と完全に一致しているわけではない。「関公」は理想的な男らしさを構築するために不可欠な部分だが、ハントリーが指摘するように、キングストンはチンほど扇動的ではない (Huntley, 147)。ハントリーはヒロイズムについて詳細に論じている。

Heroism can no longer be described as a product of physical or even intellectual prowess, but as a heroism that grow out of these immigrant men's persistence in the face of cultural, economic, and social humiliation. It is not the martial prowess about which their families can talk – story or about which ballad are written, not even the bravery of the peasant who has been conscripted to fight in a war he does not understand.

(Huntley, 149)

ハントリーのヒロイズムについての定義は、チンを代表とする従来の中国系アメリカ人作家の理論の範疇を超えてない。女性作家にとって、男らしさ (ヒロイズム) はどのように定義されるのか。キングストンとタンなどの女性作家の作品に関しても、男らしさあるいはヒロイズムを再定義する必要があるのではないだろうか。

キングストンは、女性の視点から、新しい男らしさとヒロイズムの定義の可能性を試みる。彼女の新しい男性像は「関公」を乗り越えたものであり、女性の感受性と合っているのである。ハントリーはキングストンの新しいヒロイズムを以下のように定義している。

The new heroism is quiet, stoic, simply endurance in an alien country far from all that is familiar.

(Huntley, 149)

『アメリカの中国人』において、キングストンの理想的な男性は、「父たちについて」(“On Fathers”)の章に登場する父(BaBa)のような子供好きの人物である。最初は、父のイメージは実に曖昧である。ある日、やせ形の男の後姿を見て、娘は父と間違っ歩いて迎えに行く。しかし、母はその男は父ではなく、父によく似た男だと言う。その男が立ち去るのを眺めたあとすぐに、父が帽子に指で触れて挨拶をするような格好で反対の方角から大股で近寄ってくる(*China Men*, 6-7)。これは興味深いエピソードである。父は娘にとって、近づいてみたい存在である。「中国からやってきた父のこと」の章には、父は娘とおもちゃの飛行機を作るために、蜻蛉で遊んでいる姿が描かれている(*China Men*, 11)。父と一緒に、蝙蝠と蛾を捕まえたり、チャイナタウンの賭博を見に行ったりすることで、いつも沈黙している父の姿が、娘にとって鮮明なものになってくる。

ハントリーは「しかしながら、新しい男性は、フランク・チンの作品の中心を占める戦争の神、関公ではないし、無法者でも男らしさが過剰の闘士でもない」(Huntley, 153)と指摘するように、新しい男性は「関公」でも、無法者でも男らし過ぎる戦士でもない。キングストンの理想的な男性像は、『アメリカの中国人』の最終章「ベトナムの弟」(“The Brother in Vietnam”)に登場する弟のハン・ブリッジ(Han Bridge)である。弟は、ベトナム戦争以前は、田舎で教師として働いていた。彼の周囲にいる学生たちは政府の宣伝に騙され、次々と戦場に赴く。弟は学生に戦争の怖さを教えるためにあちこち走り回る。

He'd been the only rational, unselfish adult there, the only one with an idea of order, responsible for the safety of all of them, the only one who would question cannibalism.

(*China Men*, 283)

キングストンは作品の語り手「私」を通して、弟を賞賛する。しかし、弟も否応なしに戦争に巻き込まれる。ベトナムで、自分の目で見えた残虐な光景にショックを受け、食欲もなくなる。彼は、当時の政府に洗脳された青年とは違い、戦争の本質を容易に見抜く。弟は、殺人を楽しんでいる兵士とは異なり、外国に逃げてでも人を殺さないと固く決意する。

He would not shoot a human being ; he would not press the last button that dropped the bomb...

If ordered to shoot at a human target, he would then go AWOL to Canada or Sweden.

(*China Men*, 285)

三年後、アメリカ政府がベトナムから軍隊を撤回すると宣言したとき、弟は帰国する。戦争は全く価値がないと言う。弟は教養があり、真の愛国心があり、平和を愛し、反戦主義の新しい男性である。フィッシュキン(Fishkin)はキングストンの作品にあるこのような人物の特徴を次のように述べる。

...the possibility of a playful, peaceful, nurturing, mothering man, and...a powerful nonviolent woman and the possibilities of harmonious communities. (Fishkin, 783)

こうして見てみると、キングストンの理想的な男性像は単に「関公」のイメージを乗り越えるだけでなく、男性／女性の二項対立を脱し、男女の混合体ということになるだろう。このような男性像は、おそらくキングストンの独創ではないだろうか。

おわりに

60年代の公民権運動の影響で、エスニックとしての中国系アメリカ人作家は自分のルーツである—中国文化に目を覚め始めた。一方、キングストンの躍進はエスニック作家の主流に文学に入る道を提示するのである。つまり、「母国」のあらゆる文化宝庫に必要となるものを取り入れ、自分の作品に投影する。だが、同じ書き方をしても、評価されるとは限らない。キングストンの作品の中国文化（文学）イメージをめぐる論争はその証明である。

80年代に、中国系アメリカ人の作家達は中国系アメリカ人のヒロイズム（男らしさ、英雄的資質）を取り戻す方法を探り始めた。キムも気づくように従順な「モデル・マイノリティ」と「感性を保持した一時滞在者」という二つの神話を打破するために、アジア系アメリカ人男性の新たなイメージを作り上げることが何よりも急務であった。(Kim, 227) 偶然にもキングストンを含めて中国系アメリカ人の作家はともに「関公」を中国系アメリカ人のヒロイズム（男らしさ、英雄的資質）を取り戻すための手段とする。例えば、チンのヒロイズムは「武力」と「勇気」を特徴とする。(Huntley, 146-7) よって、チンの作品における男性像は「力強い」、「熱血的」である一方たまには暴力をふるまうことも目立つ。それに対して、キングストンの中国系アメリカ人のヒロイズムは女性の感受性が与えられ、新しい男性像が描き出されるのである。キングストンは本稿で入りあげる「唐敖」と「パパ」を通し、アメリカの建設に貢献したにもかかわらず、差別視される華僑の運命がいかなる悲惨であるか、という主旨を読者に伝える。

ただ、中国系アメリカ人の惨めな男性像を再現するのは、中国系アメリカ人作家として自覚の最初段階である。つづいて新しい男性像のつくりだしに取り組み、「関公」のイメージを取り入れ、「阿公」の物語を通してキングストンはほかの中国系アメリカ人の作家と同じように中国系アメリカ人男性の男らしさを取り戻そうと試みる。「弟」の人物像はそれまではなかった新しい中国系アメリカ人の男性像となる。「弟」という人物像は「関公」の影響を受けている一方、「関公」を乗り越える存在となる。こういう点から見ても、キングストンはアメリカ文学界に称賛されるのは決して理解しにくいことではないだろう。

引用・参考文献

- Chin, Frank. "Racist Love." *Seeing Through Shuck*. Ed. Richard Kostelanetz. New York : Ballantine Books, 1972. 65-79.
- . Aiiieeeee ! An Anthology of Asian-American Writers. Washington: Howard UP, 1983.
- *Gunga Din Highway*. Minnesota: Coffee House P, 1994.
- *Contemporary Literary Criticism*. Detroit:Gale Group, 2001.
- Eng, David L. *Racial Castration: Managing Masculinity in Asian American Literature*. Durham: Duke UP, 2001.
- Fishkin, Shelley. "Interview with Maxine Hong Kingston." *American Literary Story* 3. 4 (Winter1991)
- Grice, Helena. *Maxine Hong Kingston*. London: Manchester UP, 2006.
- Huang, David Henry. *The Dance and the Railroad and Family Devotions*. New York: Dramatists Play Service Inc., 1983.
- Huntley, E. D. *Maxine Hong Kingston: A Critical Companion*. Westport, Conn.: Greenwood P, 2001.
- Kim, Elaine H. *Asian American Literature: An Introduction to the Writings and Their Social Context*. Philadelphia: Temple UP, 1982. (『アジア系アメリカ文学—作品とその社会的枠組』世界思想社、2001年)
- Kingston, Maxine Hong. *The Woman Warrior: Memoirs of a Girlhood among Ghosts*. New York: Vintage, 1976. (藤本和子訳『チャイナタウンの女武者』晶文社、1978年)
- . *China Men*. New York: Vintage, 1980. (藤本和子訳『アメリカの中国人』晶文社、1983年)
- . *Tripmaster Monkey: His Fake Book*. New York: Knopf, 1989.
- Lim, Shirley Geok-lin, and Amy Ling, eds. *Reading the Literatures of Asian America*. Philadelphia: Temple UP, 1992.
- Ling, Jinqi. *Narrating Nationalisms: Ideology and Form in Asian American Literature*. New York: Oxford UP, 1998.
- Simons, Diane. *Maxine Hong Kingston*. New York:Wayne Publishers, 1999.
- Skandera-Trombley, Laura E., ed. *Critical Essays on Maxine Hong Kingston*. New York G. K. Hall & Co., 1998.
- Skenazy, Paul and Tera Martin, *Conversations with Maxine Hong Kingston*. Jackson: UP of Mississippi, 1998.
- Yan, Gao. *The Art of Parody: Maxine Hong Kingston's Use of Chinese Sources*. New York: Peter Lang, 1996.
- Yutang, Lin. *Chinatown Family*. New Jersey: Rutgers UP 2007.